

パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築
2021 年度採択研究者

2021 年度 年次報告書

池田 真利子

筑波大学 芸術系
助教

夜の文化芸術の社会経済的機能に関する研究

§ 1. 研究成果の概要

本研究は、ポスト・コロナ社会における合理的・創造的融合と総合知を駆使し、COVID-19 を契機に中断した夜の文化芸術部門の経済的機能に注目し、基礎統計調査とハイブリッド式シンポジウムにより学術的成果を社会へと発信することを目的とする。また、人文社会科学領域が、AGENDA2030 やポスト・コロナ社会の形成に向けていかなる社会的責務を果たし得るのかを考え、文化・創造経済の枠組みにおける文化芸術の更新と、それを可能とする制度設計・情報整理が必要であるとの考えに至った。この点において伝統・革新の融合を可能とする文化・創造経済の制度設計を行うドイツの文化政策は参照に値する⁵⁾参照。

初年度である 2021 年度は、プレ・コロナ社会で文化経済セクターとして認識されず、また実態理解の不足していた公益性の高い民間文化セクターのなかで、COVID-19 で深刻な影響を受けた夜間音楽経済に注目し、かつ上記の目的に到達するための基礎統計調査に係るオンラインのヒアリング調査を 32 件(ライブハウス・クラブ・イベント・DJ・アーティスト等の 42 名)に実施した。それに基づき作成したアンケート調査票は、筑波大学芸術系研究倫理委員会にて審査中である。

【代表的な原著論文情報】

- 1) “Rearticulating place and virtual space. An exploratory netnographical case study on hybrid music streaming: ‘Cercle’”, The 2nd International Conference on Night Studies, the Centre for Research and Studies in Sociology (CIES-IUL) (Porto, Portugal), 2021 年 10 月
- 2) “Olympic games and the Emergence of ‘Night-time Economies’ in the Cities of Global North”, Olympic Games Conference (Paris, France), 2021 年 12 月(招待有)
- 3) 「日本の文化創造産業の統計整備に向けた学術報告 ー民間公益文化セクターである大都市圏のライブハウス・クラブへの COVID-19 の影響分析に関する定性的調査に基づいてー」, 文化経済学会<日本>2022 年度 3 研究大会-B 文化統計, 文化経済学会<日本>, 2022(発表受理)
- 4) “Studio as a third workplace for nomadic musicians”, RGS-IBG Annual International Conference 2022 at Newcastle University, 2022(accepted)
- 5) 「第 10 章 COVID-19 下の創造性と芸術表現」, 『ポスト・コロナ学(仮)』明石書店, 2022 年 4 月